

ルネサス 労働相談ホットライン 有休請求で不利益心配 1件

「ルネサス リストラ「合理化」」にともなって、9月18日から26日の期間におこなわれる早期退職募集（10月31日退職）を前に、従業員の雇用不安、生活不安や悩み・要望等についての相談を受ける」「ホットラインで受けた相談に基づいて会社や労働局、県・市などの行政・自治体、関係諸機関に要請・申し入れをおこなうなど、解決のための支援をおこなう」「工場閉鎖・撤退、雇用・地域経済破壊など、大企業による一方的なリストラ「合理化」の強行に警鐘を鳴らし、社会的責任を問う」ことを目的として取り組んだ山口、宇部、周南、岩国、下関の県内5地域の労働相談センターでの16日のルネサス労働相談ホットライン。16名の相談員が電話相談がかかってくることを期待しながら待ちつづけたものの、残念ながらこの日の電話相談はありませんでした。ウ～ム。

しかしながら、事前の14日には柳井工場に勤務する男性社員（17年勤続、下松市）から「門前で配っていたホットラインを掲載したビラをみた」と電話相談がありました。「早期退職募集に応じる。再就職のために有給休暇を取りたいが、会社の書面では引き継ぎをキチンとしないと休めないような内容になっている。有休請求したら退職金の上積みや再就職等の不利益がでないか心配。有休の残日数は40日」と。すぐさま、実行委員会・高根事務局長が山口労働局に電話。有給休暇の制限禁止、不利益扱いをしないよう会社に調査・徹底するよう申し入れました。そして、労働局担当者が「局として対応する」と回答したことを相談者にも連絡しました。

「しんぶん赤旗」日曜版記者が取材

労働相談ホットラインの16日、山口県労連に「しんぶん赤旗」日曜版の北村隆志記者がルネサスのリストラ「合理化」に対する「山口県の運動・取りくみが全国的にもすすんでいるから」と取材に訪れました。

北村記者は、18日には山陽小野田市の白井博文市長にも取材することになっています。「宇部市長、山陽小野田市長が2度にわたって本社を訪問。事業継続、雇用確保を要請したことは注目すべきこと」と、白井市長に会うことを楽しみにしている様子です。しかしながら、宇部市・久保田后子市長にはなぜなのか断られたそうです。